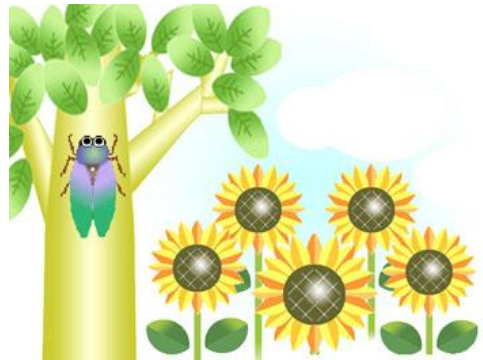




ひとつのうた

詩を紹介します。

ひとつのうた おのえたかこ
ひぐらしは ひとつのうたしかしらない
さあ 1日がはじまるよ かなかなかな……
にわか雨がふるのかな かなかなかな……
雨があがったみたいだよ かなかなかな……
きょうはおしまい
おほしさまが見えるかな かなかなかな……
うれしいときも かなしいときも
ひとつのことばで つうじあえる
わたしたち たくさんのことばを知っているのに
心をつうじあえることばを みつけられないの なぜ？



4月から「あたたかな言葉で伝え合い、つながろう！」を合言葉にして、授業や活動に取り組んできました。子どもたちも、あたたかな言葉のよさを知っていますし、あたたかな言葉を使って友達と話をしようとも思っています。

そう思っている、自分の思いを上手に伝えることができなくて、素直に伝えることができなくて、ついイライラしてしまって、相手を傷つけてしまうようなことばを言ってしまうたり、思わず手が出てしまったりすることがあります。4月からの学校生活の中で、こうした場面に出会うことが度々ありました。その度に、やり切れない子どもの顔を見ました。

そんな子どもたちに、「夏休みを迎える会」の時、上の詩を紹介し、内田麟太郎さんが書いた絵本『ごめんね ともだち（偕成社）』を読み聞かせました。ちょっとしたことから言い争いになったおおかみときつね。「ごめんね」の一言が素直に言えない二匹の切ない時間。そんな二匹の物語を、子どもたちは、自分の経験を重ねながら聞いていたと思います。

あたたかな言葉を使う時ってどんな時でしょう？

楽しいこと、嬉しいことなど、ちょっぴり良いことがあって、心にゆとりがある時。

逆に、「相手を傷つけたり、怒らせたりする心ない言葉」を使う時は？

嫌なこと、腹立たしいことがあった時、忙しくて焦っている時、心にゆとりがない時。

そして、まったく何も考えずに、衝動的、瞬間的に、言葉が出てしまう時。

人に何かを言う時には、「どう伝えたらいいかな？」と、ひと呼吸おいて、言葉を選んでから。

明日から、夏休みが始まります。家族で過ごす時間が多くなります。一緒に過ごす時間が長くなると、ついつい厳しい言葉も出てしまいがちです。でも、その分、あたたかな言葉をかけてあげればよいのです。「大好きだよ」と、素直に言える大切さを伝えればよいのです。8月26日、あたたかな気持ちに包まれた、子どもたちのすてきな笑顔に出会うことが楽しみです。（校長 小林 正宣）